

やはり 20 代から感染が拡大するようです

- 金曜日 - 08 4 月 2022

首相官邸ホームページに毎週木曜日に掲載されるワクチン接種歴別新規感染者情報は、とても貴重な情報を提供してくれているのですが、その割にはあまり報道されることがありません。本ブログでは毎週のように掲載させてもらっており、3 回目ワクチンの効果を検証するには大変意味のある資料だと思っています。

昨日掲載された資料は、3 月 21 日から 27 日までの新規感染者に関する情報で、本格的に再拡大の兆しが見えた 1 週間前のデータとなりますが、それでも再拡大に関して大変貴重な情報が含まれていました。早速それをご紹介します。その情報は、ワクチン接種歴別の人口 10 万人あたり感染者数の推移の表を示す下の表にあります。

ワクチン未接種者の10万人あたり新規陽性者

	1/3-9	1/10-16	1/17-23	1/24-30	1/31-2/6	2/7-13	2/14-20	2/21-27	2/28-3/6	3/7-13	3/14-20	3-21-27
-11歳					798	754	778	721	681	667	582	449
12-19歳	69	330	774	1009	1043	986	953	794	789	733	660	599
20-29歳	220	624	1120	1272	1157	989	878	679	700	590	565	566
30-39歳	74	233	604	870	934	902	829	681	661	578	523	467
40-49歳	41	157	433	673	756	749	702	569	553	471	413	368
50-59歳	54	195	506	790	883	921	834	668	658	527	397	395
60-69歳	43	78	221	367	448	486	449	354	395	247	325	147
70-79歳	21	79	252	442	559	621	588	451	413	274	206	154
80-89歳	50	202	670	1291	1798	2432	2601	2137	1900	1247	906	736
90歳以上	63	292	910	1854	2485	3795	4399	3488	3723	2646	2422	2330

ワクチン2回接種者の10万人あたり新規陽性者

	1/3-9	1/10-16	1/17-23	1/24-30	1/31-2/6	2/7-13	2/14-20	2/21-27	2/28-3/6	3/7-13	3/14-20	3-21-27
12-19歳	21	106	233	276	286	248	254	212	213	208	224	202
20-29歳	58	183	309	360	359	298	285	223	220	197	201	202
30-39歳	22	70	184	293	340	302	302	252	232	216	204	174
40-49歳	13	50	142	232	275	249	246	203	186	172	160	139
50-59歳	11	38	100	155	183	169	159	127	116	102	92	77
60-69歳	12	21	56	97	124	118	112	85	73	56	48	37
70-79歳	4	12	34	64	86	83	79	56	44	32	26	20
80-89歳	4	11	34	65	93	99	99	73	54	39	30	21
90歳以上	5	16	53	98	141	171	178	135	95	69	47	37

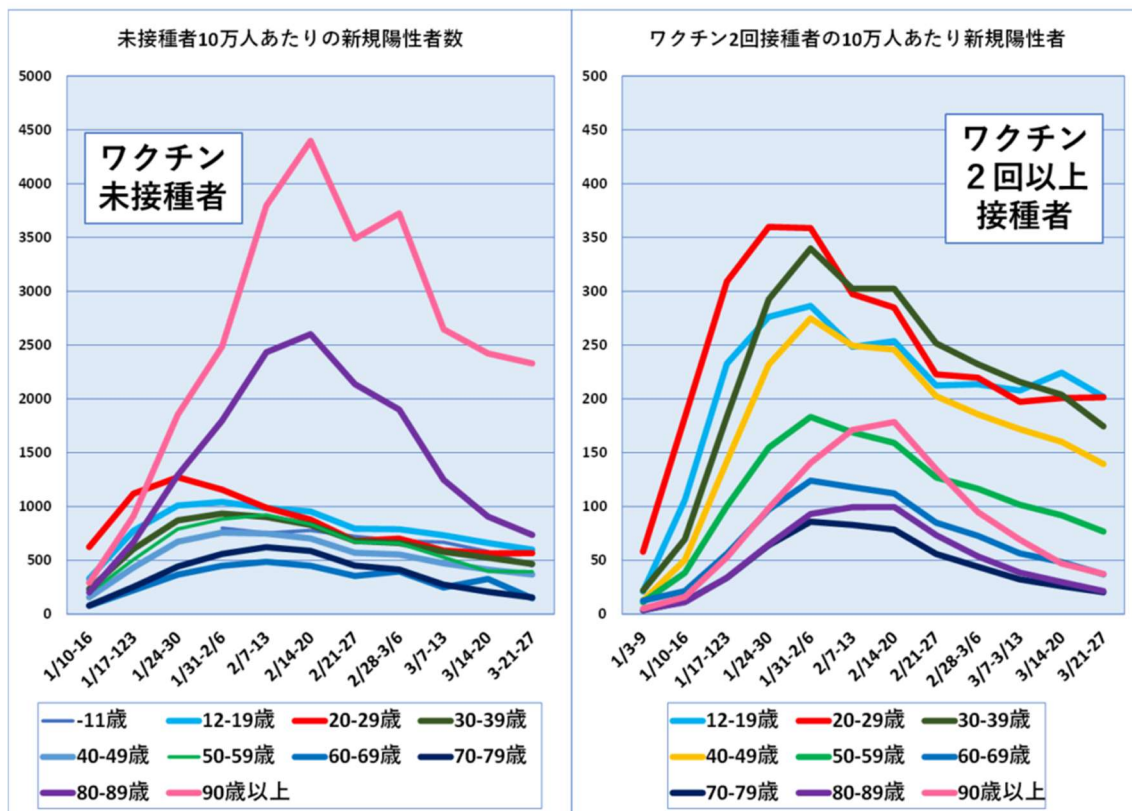
上がワクチン未接種者、下が 2 回(以上)接種者の当該 1 週間の 10 万人あたり感染者数で、1 月 3 日の週から 3 月 21 日までの週の推移を示しています。注目してもらいたいのは右端の最新データで、20-29 歳のところだけピンクで色付けていますが、これは他の年代がすべて前の週にくらべ減少しているのに、20 代だけがわずかとはいえ増加しているのです。

実はこの第 6 波においては、ワクチン接種の有無に関係なく、20 代の感染者数ピークだけが他の年代よりも早くなっています。表中の黄色く色づけした部分が感染者数がピークの週ですが、20 代が先行し他の年代が追随し、最後に高齢者のピークが訪れるというパターンは、ワクチン接種の有無に関係なく同じです。これだけを見ると感染拡大は 20 代が牽引しているとも言えそうです。

来週発表されるデータを見れば、もっとはっきりしたことが言えそうですが、これから第 6 波の感染パターンがまた繰り返されるのではないかと心配しています。と書くと、それは 3 回目ワクチン接種を高齢

者優先で進めたためではないのかという意見が出てきそうですが、それは以降の説明によりはっきりと否定しておきたいと思います。

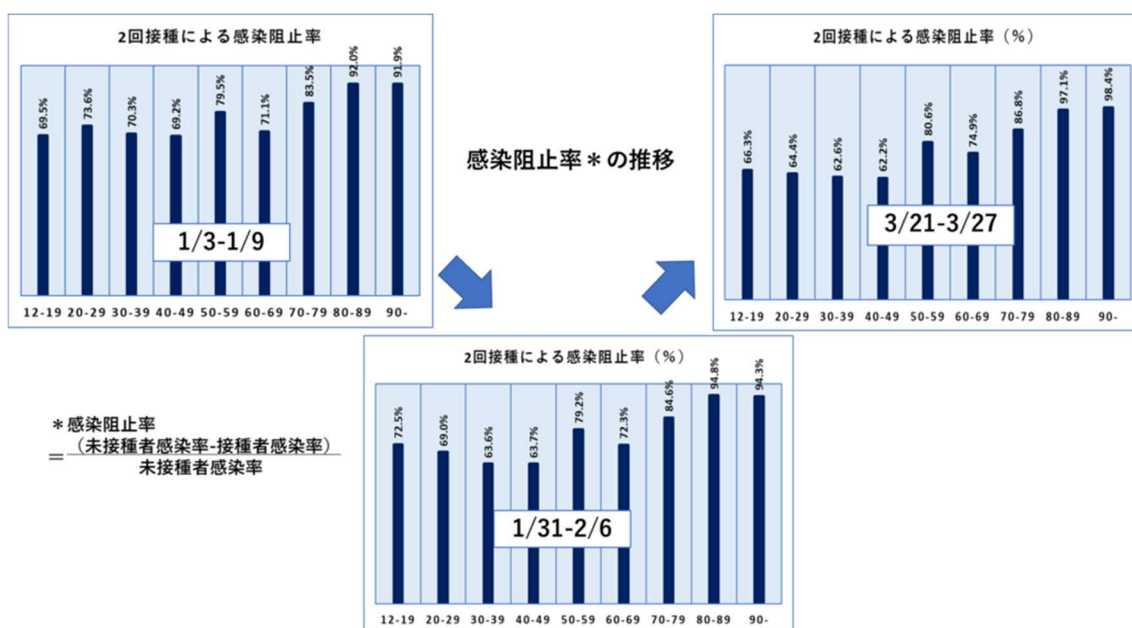
ワクチン接種歴別10万人あたり新規陽性者数/7日間の推移



この図は上の表をグラフ化したもので、左が未接種者、右が2回(以上)接種者です。縦軸目盛りが左と右とで10倍違い、圧倒的に未接種者の方が10万人あたりの感染者数が多いのですが、見ていただきたいのは、右のグラフでこの第6波において、ワクチン接種者の感染者は10万人あたりで比べると、最初から今に至るまで若い世代が多いということです。50歳を境として二つのグループを形成していると言ってもよいくらいです。

これは以前から書いていることですが、2回目の接種から第6波までの時間は若い世代の方が短く、従って抗体数も多いはずで、感染抑止力もあると考えられます。しかし、ワクチン接種者に限ってみれば、**事実**は若年世代の方が感染が多いのです。この意味するところは、感染抑止という観点ではやはりその人の行動が大いに関係しているということではないでしょうか？

そして若い世代の感染が多いことと、3回目接種を高年齢者から開始したことの因果関係はないと考えられます。それは下のデータを見れば明らかです。



この3枚のグラフは、感染初期の1月3日-9日の週、感染拡大ピークの1月31日-2月6日の週、そして最新データである3月21日-27日の週における世代別ワクチンによる感染抑止率のグラフです。感染抑止率というのは正式な概念ではなく、私が勝手に考えたもので、 $(\text{未接種者感染率} - \text{接種者感染率}) / (\text{未接種者感染率})$ で表されます。意味するところは、「接種者の感染者数が、未接種者と同じ感染率で感染したと仮定した感染者数に比べてどれだけすくないか」というものです。

明らかなことは、ワクチン接種による感染阻止率は、第6波の最初から今に至るまで一貫して高齢者の方が高いということです。1月の最初に週においては高齢者といえども3回目接種はほとんどゼロでした。にもかかわらず、高齢者の阻止率は90%を超えており、50歳未満では70%程度に留まっています。

若年層と高齢者層の感染阻止率の乖離は、時間が進むにつれ拡大する傾向にあり、高齢者の阻止率はさらに高くなり、若年層の阻止率はさらに低くなってきています。この乖離傾向が強まったことに関しては、3回目接種が高齢者優先で進んだことと関係しているかもしれませんが、感染阻止率が年齢別に二分していることの本質ではありません。本質は、阻止率は単にワクチン接種歴だけでは決まらないということです。

ここで議論してきたことは、ワクチンは感染阻止に有効ではないということではありません。外国のデータを鵜呑みにして、「ワクチンは感染抑止には効果がない。重症化予防のために接種している」などとコメントしてきた専門家と呼ばれている人たちにはこのデータを突き付けてコメントを求めたいところですが、申し上げたいことは、以下のことです。

- ① ワクチン接種は例え2回のみでも、かなりの感染抑止効果はある。
- ② ただし、その抑止効果は完璧ではなく、その人の行動にもかなり左右される。

正直言って3回目ワクチンの感染抑止効果がどこまであるか疑問はありますが、打たないよりは打った方がよいことは間違いありません。そして3回目ワクチンを接種したからと言って安心せず、これまで通りの感染防止のルーティーンを継続してしっかり自分を守ることが大切だと思います。